

安全・景観・環境を提案する"群交協"

第65号

群交協だより

URL:<http://www.k5.dion.ne.jp/~gunkouky/>

平成26年1月10日 発行

発行

群馬県交通安全施設業協同組合

前橋市大手町1-2-6 ☎027-223-3343

発行責任者 峯崎 寛

編集発行人 小沢 竜也

群馬県交通安全施設業協同組合

理事長 峯崎 寛



あけましておめでとうございます。新春を健やかに迎え、二〇一四年が皆様にとって素晴らしい年であることを祈念し、謹んでお慶び申し上げます。

昨年、世界的に異常気象による災害が発生し、多くの尊い命が失われました。また偽装の発覚やJR北海道に見られる職業人としてのモラルの低下等、この国はどうなってしまったのでしょうか。

交通事故による死亡者は減少傾向というところで喜ばしいことですが、高齢化社会の結果お年寄りの事故や車の逆走による事故などが多発しております。また、若者による悲惨な事故、暴走による痛ましい事故など毎日、新聞を賑わせておりました。

そんな中、アベノミクス効果や東京オリンピックの招致決定などで景気の回復傾向が見られ、大きな期待を持って新年を迎えることになりました。

群馬県知事 大澤正明



明けましておめでとうございます。新しい年が、群馬県交通安全施設業協同組合の皆様にとつて幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は、新政権による経済政策などにより県内景気にも明るい兆しが見え、スポーツでも、前橋育英高校が夏の甲子園大会初出場で全国制覇、大学野球でも上武大学が初優勝するなど、本県勢の大活躍は県民に勇気と感動を与えてくれました。また、長年にわたる課題であった八ッ場ダムも、本体着工と地元の生活再建に向けて大きく前進した一年となりました。

さて今年も、群馬県飛躍の年です。

六月には、いよいよ「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録が期待されます。登録決定に向けて万全を期すとともに、県民の誇りであるこの貴重な遺産を国内外に積極的に発信し、観光や地域振興に生かす取り組みを進めて参ります。

また、景気回復の動きを県内隅々に行き渡らせ、経済の持続的な成長につなげていく必要があります。首都圏から一〇〇kmという群馬の立地を生かし、私が先頭に立って企業誘致など経済の活性化に取り組みむとともに、北関東自動車道の開通により形成された高速道路の十字軸を最大限に活用できるように、「七つの交通軸」の整備を完成年度を明示して着実に

三十二年目を迎える当組合は、先人の先見性と努力により、今日まで専門工事業としてやっております。しかし、これからの激変する世界経済の中で生き残って行くためには、まず組合員である個々の会社の発展（後継者育成、人材の確保、財務の健全化）を図り、各社の思いや夢の実現を叶えることが、組合の在るべき姿と考えております。そのためにもこの二、三年が大きなチャンスであると信じております。

組合活動につきましては、例年通り粛々と進めます。①社会貢献事業 ②研究研修会の開催 ③組合員の交流、親交 ④政調会や県へのアピールなどです。

組合員の一人、一人の思いの実現が群交協の目的であることを肝に命じ、関係各位のご指導を賜りながら、今年一年進めて参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。新年の挨拶といたします。

進めて参ります。

新たな経済需要をもたらす取り組みも重要です。北陸新幹線が金沢まで延伸いたしますと、本県の拠点性がより高まります。こうした追い風を捉え、交流人口を増加させるための中核施設として、高崎競馬場跡地にコンベンション施設の整備を進めて参ります。また「群馬がん治療技術地域活性化総合特区」を活用した医療産業の振興など、次世代を担う産業の発展や、アジアからの観光誘客や農畜産物の輸出にも、力を注いでいきたいと考えております。

そして、群馬がさらに大きく羽ばたいていくためには、我々県民が郷土を知り、誇りと愛着を深めていくことが大切であります。私たちのふるさととは、四季折々の美しい自然にあふれ、古代から東国文化の中心として栄えた地です。こうした先人から受け継いできた財産を積極的に生かしながら、群馬の可能性を高めていきたいと思っております。

今年も、県総合計画「はばたけ群馬プラン」を着実に推進し、「現場主義」と「県民目線」で県政運営に取り組みまいりますので、貴組合の皆様におかれましては、安全な交通環境の創出のため、より一層のご支援をお願い申し上げます。新年のあいさつといたします。

平成二十六年一月一日

第22回交通安全施設研究会

平成二十五年十一月二十一日(木)高崎市産業創造館多目的ホールにおきまして、各関係官庁の皆様をお迎えし群馬県交通安全施設業協同組合(峯崎寛理理事長)と全標協関東支部群馬県協会(荻野将樹会長)の共催による「第二十二回交通安全施設研究会」を開催いたしました。

当日は、道路標識及び道路標示ハンドブックの改訂点などが説明され、約一〇〇人の関係者が熱心に聴講しました。

始めに、峯崎理事長より「本日は全標協より二名の講師をお招きいたしました。皆様には改訂内容を理解し仕事に役立ててほしい。時代と共に変化していく標識・標示に対し認識を高め、本日の勉強会が有意義になれば」と期待を込めた挨拶がありました。

続いて、荻野会長が「行政の皆様とともに、我々も知識と技術の向上に努力しなければならない。」と研究会開催の意義を強調しました。

講演へと移り、八年ぶりに改訂された道路標識ハンドブック改訂点についての内容が説明され、講師には、改訂委員を務める全標協の本多茂氏、十五年ぶりに改訂された道路標示ハンドブックについては、編集委員の石井和夫氏から講演をいただきました。

講演後、同組合の賛助会員である(株)吾妻商会、住友スリーエム(株)積水樹脂(株)の三社がデモンストラーション車による交通安全対策製品の展示・説明を行い、雨天時の視認性を高めるための道路標識や路面標示の新技术・新製品などを紹介いたしました。

当組合はこれからも安全・安心の道路環境整備を目指し、標識・標示に対する認識をさらに高めると共に、技術の向上、習得に組合員一丸となって努めてまいります。



子どもを守るプロジェクト

平成二十五年九月、藤岡市・大泉町・吉岡町の全九小学校において「子どもを守るプロジェクト」を実施致しました。

実施内容は、小学校の校門出入口に各地区のキャラクターを載せて「知らない人にはついていけない」旨の啓発シートを設置しました。

近年は通学中の交通安全防犯への意識が高まっています。

周辺の方達やドライバーの方達だけでなく、児童の皆様自身にも、登下校時に、今回設置した啓発シートを見る事によって防犯意識を高めて頂ければと思います。

「こどもを守ろうプロジェクト」の第五回全国交流会が平成二十五年十月十七日に新潟県新発田市で開催されました。

始めに各都道府県協会による活動報告の後、意見交換を行いました。

今回で五回目となった全国交流会は、一都一十五県の参加者が集まり、まさに全国規模でのボランティア活動に成長してまいりました。

この全国交流会の成果を生かし、今後の子供達の安全対策に尽力を尽くしていきたいと思えます。



第22回つり大会

恒例となりました群馬県交通安全施設業協同組合青年部主催釣り大会を、平成二十五年九月一日(日)に前橋市柏倉町にある大崎釣り堀にて開催致しました。

心配していた台風の影響も無く絶好の行楽日和となりました。

組合員・協賛組合員及び家族の友好と親睦を深める目的の釣り大会も、二十二回を迎える事が出来ました。

参加者の歓声や子供達の笑顔が溢れる楽しい一時を過ごす事が出来ました。

終盤には池を開放し、子供達による魚のつかみ取りを行い大盛況の内にとまりました。

この日、会員の皆様から頂いた募金は、後日、佐藤交通遺児福祉基金へ寄付を致しました。

今後もこの活動は続けていきたいと思えます。



■組合員

(株)三積商事・(株)日装・富士技工(株)・(株)信交
(株)中井産業・群馬ライン企画(株)・富友産業(株)
(株)コムテックス・(株)サンテック・サン(株)・(株)友邦
共進安全(株)・三菱産業(株)・昭和サイン(株)
新日東(株)・ダイケンテクノ(株)・(有)高崎保安機材
中央ライン(株)・(株)日栄ライン工業・(株)ヒロタ
マーケティングウェイ(株)・(株)三山

■賛助会員

(株)吾妻商会交通用品部・アトミクス(株)
岩澤建設(株)群馬支店・岳南光機(株)
信号器材(株)群馬営業所・新道路企画(有)桐生
支店・住友スリーエム(株)トラフィック セーフ
ティ・セキュリティ事業部・関東積水樹脂(株)
燕振興工業(株)・日鉄住金防蝕(株)北関東営業所
野原産業(株)都市環境事業部・扶桑工業(株)
群馬営業所・ヨシモトポール(株)関東支店